

2012年度 私立大学図書館協会東部地区研修会
図書館の復興支援と大学の役割

2012・11・29

東海大学工学部建築学科教授
3.11生活復興支援プロジェクトアドバイザー

杉本洋文

多発する地震災害

日本は、地球上の8割の地震が発生している！

日本は、各地で多くの地震災害が発生している。近年の主要な地震災害でも下記の通りである。

- 1993年 北海道南西沖地震
- 1995年 阪神淡路大震災
- 2000年 鳥取県西部地震
- 2004年 新潟県中越大震災
- 2007年 能登半島沖地震
- 2011年 東日本大震災（地球規模で第2位）
長野県北部

どんぐりハウスの誕生の背景

どんぐりハウスの誕生した 背景と経緯とは！

どんぐりは、森の地下で眠っている。
そして、自然に発生する森林火災で、森が消失すると、
日が当たり、芽をだして、森を再生させる。
その力強さにあやかって名前をつけた。



日本は森林国家です！

国土の

約 **66%**

が森林です！

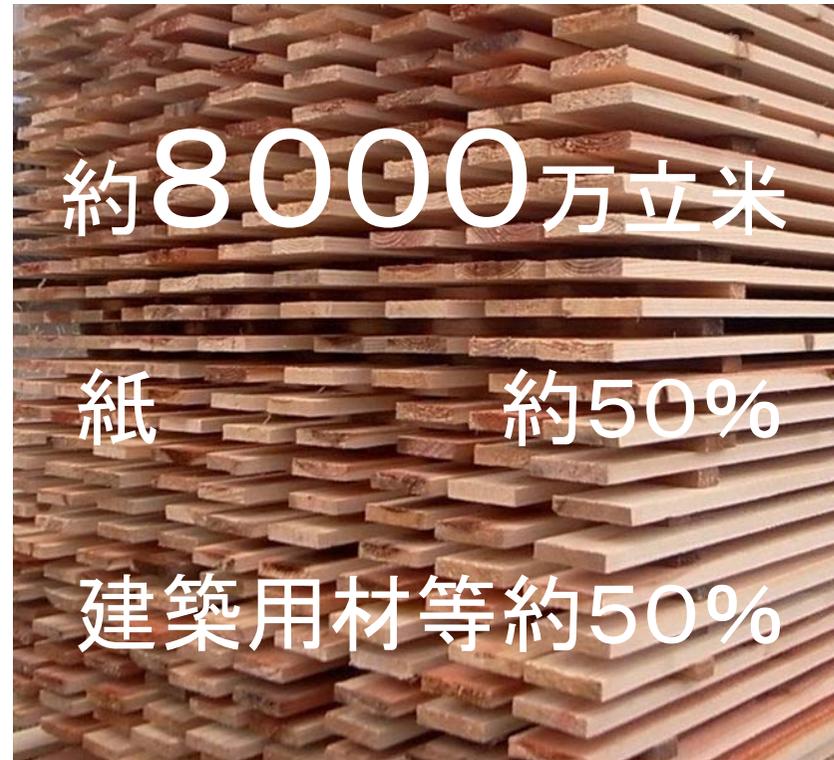
フィンランド、スウェーデン
に続き世界第3位です。

森で育つ木材量は使用量と同じ！

木材生育量（1年間）



木材使用量（1年間）



日本は木材の輸入大国です！

日本は、世界から安価な木材を、国内で利用する約73,4%以上を輸入しています。



国内の木材利用が少ないために、林業が衰退し、森の環境が壊れている。

日本は世界に誇るべき 木造建築の国です！

法隆寺五重塔



世界最古の木造建築

東大寺大仏殿



世界最大級の木造建築

木造建築は、 サステナブル（持続可能）な建築です！

資源循環型建築

* 伊勢神宮（木造建築）



* 錦帯橋（木造橋）



20年に1度の遷宮！
日本が誇る持続可能な永遠性を備えた知恵です。

* 森を育て！

次世代の森を育てる

* 技を伝え！

20年サイクルで大工の技術
を次世代へ伝える

* 木の文化を引き継ぐ！

木の文化は、同じものを作り替
えられる技術によって、永遠に
文化を伝える。

公共建築を木造で作る時代へ！

平成22年5月26日公布

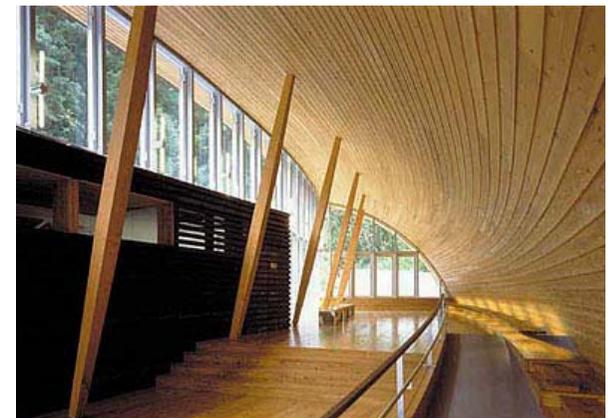
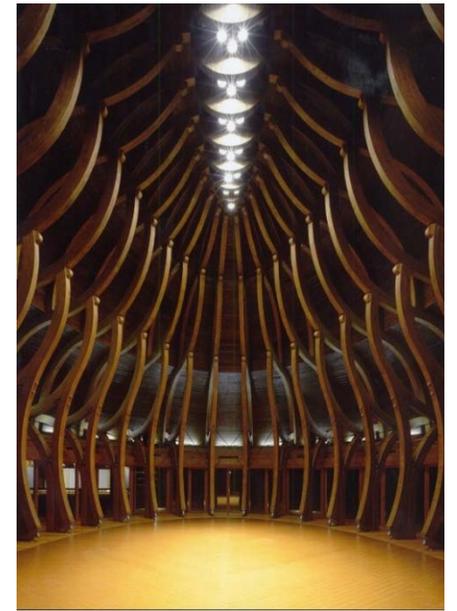
公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律





木造建築

街中に第2の森をつくる
高炭素蓄積社会の実現



森林国家の応急仮設建築の現状

日本は森林国家なのに、
何故、応急仮設建築が
木造で建たないのか！

- 日本は、国土に占める森林の割合が約7割の世界第3位の森林国家です。
- 毎年の森林生育量は、私たちが使っている木材量と同じである。
- 災害における応急仮設住宅建設は、厚生労働省の災害救助法によって行われている。
- 各県は、平常時から日本プレハブ建築協会と契約が行われている。
- したがって、他の構法の仮設住宅は準備されておらず。建設されてこなかった。

阪神淡路大震災 1995



仮設建築システム 夢みなと博1997 管理施設（住宅・公共施設用）

会期前に阪神淡路大震災が発生した、そこで、仮設木造建築システムを開発する機会とした。そして、災害時の応急住宅・公共施設の供給を目指したのだが、その後の災害では活かされなかった。



2004年10月23日 新潟県中越大震災発生！



新潟県中越地震2004 応急仮設住宅 (4,5帖)を 8棟建設

小田原の森林・林業関係者と一緒に、杉と合板パネルで制作し、小田原市の支援を受けながら、ボランティアで建設した。



小田原防災訓練展示

応急仮設住宅建設 2005

4トントラック1台にワンユニット搭載、
建設2時間程度

小田原市の防災訓練で、解体した、応急住宅モデルを展示し、木造の応急仮設住宅の必要性を訴えた。



東海大学チャレンジセンター

**東海大学の
ていか
ちやん** チャレンジプロジェクトで
集って挑んで成し遂げよう!!

総合大学の特色を生かした多様な学生が集結。
個性をぶつけ合いながら共に目標達成に取り組んでいます。

リーダーシップを
身につける!

仲間ができる!

打ち込めるものを見つける!

キャンパスストリートプロジェクト 湘南
湘南キャンパス周辺の地域活性化を目指し、地域と協働した
イベントの実施やフリーペーパー「THLive!」を発行します。

環境キャラバン隊 湘南
地域の小学生を対象とした
「環境教室」など、身近に出来る
エコを伝える環境啓発活動を行います。

スポーツ社会貢献プロジェクト 湘南
「東海スポーツ教室DAY」など、地域の若さんや子どもたちを対象と
したスポーツイベントを開催し、交流を深めます。

Beijo Me Liga 湘南
異文化間の交流と相互理解を目的としたマルチカルチャー
キャンプの開催や、スタディーツアーとしてブラジルでのボラン
ティア活動を行います。

© Tokai University Student Project Center

平成18年度文部科学省
現代教育ニーズ支援プロジェクト 採択
東海大学発USR型モデルの創出・実践
ー多様なヒューマンリソースをマッチングして
実践する地域活性化プロジェクトー

目標:集い力、挑み力、成し遂げ力の育成

実践:チャレンジプロジェクト

ものづくりやボランティア、地域活性といった活動を、
学部の枠を超えた仲間と一緒に実践してゆく中で
成長していきます。

*平成20年度ビーチライフ創生プロジェクト誕生!

理論:チャレンジセンター科目

気づきを促す演習を盛り込んだ授業で、楽しみながら
問題の解決方法を身につけていきます。

ビーチハウスプロジェクトの経験

木造建築による災害支援活動を、
日ごろから体験し、経験を蓄積
することが重要である。

東海大学工学部建築学科では、1年生の設計課題で、ビーチハウスを取り上げ、翌年の2006年に「ビーチハウスプロジェクト」を立ち上げ、東海大学チャレンジセンターの特別プロジェクトで実施された。

このプロジェクトは、国産材を使った応急仮設建築システムを視野に入れて、そのノウハウの蓄積と活動の継続性を目指していた。同時に、大学の地域貢献（USR）を目標とした。

発足の経緯 —砂浜の拠点と地域活性化—

地域活性化を目的として学生が建設したビーチハウス

HIRATSUKA Beach House Project

7月から9月までの期間に学生が建設から解体までを行い、8月中はワークショップを中心としたイベントを開催。ビーチハウスを拠点とした「地域活性化」を目的とする。



2007年 はがされた砂浜



2008年 海へ続く階段



2009年 海の縁側



2010年 サンゴドーム

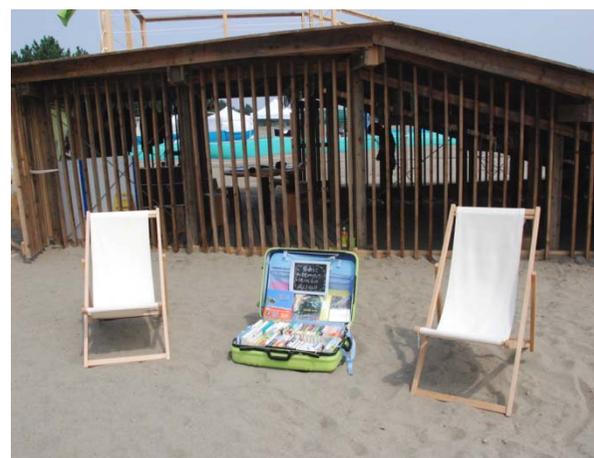
発足の経緯 —砂浜の拠点と地域活性化—

ビーチハウスでのワークショップ



USRビーチライフ創世プロジェクト2008 ～砂浜の図書館～横浜市海の公園砂浜

秋のビーチで
読書をテーマに
新たなライフ
スタイルを
提案する



USRビーチライフ創世プロジェクト2009

～砂浜の図書館～横浜市海の公園砂浜～



2011年3月11日 東日本大震災発生





3. 1 1 生活復興支援プロジェクトは
4月1日、正式にスタート！



私たちの活動は、震災の翌日から開始され、ビーチハウスプロジェクトのノウハウを生かして、国産材の木材で東北支援を自分たちの手で実施することを決意した！
そして、初動期が最も重要であることは分かっていたので、**どんぐりハウス（旧応急住宅）チーム**を立ち上げ、活動を開始した！それが、東北へ、早期に木造の仮設公共施設を実現することができた。



3.11 Life Care Project

生活復興支援

Emergency House Life Media Community Care



活動理念

持続可能な復興支援

地域に根付いた復興支援を提言・提案・実践
「人」との繋がりを重視

総合大学ならではの支援

多様なネットワークや専門分野を活かした活動
USR（大学の社会的責任）に向けた取り組み

支援計画

第1期

～1ヵ月

緊急・援助期

命を守ること、助けることが最優先

避難所

衣・食・住の情報

間仕切り、避難所の掃除、ラジオ体操

第2期

～半年

復旧準備期

生存できる環境は確立

応急住宅

地域情報、安否確認、確実な情報の整理が必要

スポーツ大会やイベントの開催、ストレス発散の場所が必要

第3期

～3年

復旧期

最低限の生活環境が整う

仮設住宅

就職情報、住宅情報

メンタルケア、クラブ活動、教育...

第4期

～10年

復興期

生活水準を上げる

一般住宅の建設

メディアセンター

介護、看護、メンタルケア...

組織体制と活動内容

応急住宅

- ・ウッドブロックによる応急仮設建築物「どんぐりハウス」の提案と建設作業、技術提供
- ・ソーラーパネルやバイオトイレを用いた自立型設備システムの採用

ライフメディア

- ・被災地の復興記録を子どもたちの手で行う、「夏休みこどもテレビ局」を企画

コミュニティア

- ・被災地のニーズを最優先に、「集い」をテーマとしたイベント企画の実施
- ・公民館・集会所として建設された「どんぐりハウス」を拠点としたイベント企画の実施
- ・「どんぐり募金」の実施



組織体制と活動内容





応急住宅

ライフメディア

コミュニティケア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

「どんぐりハウス」開発 ウッドブロックシステムの採用



東北の合板工場の被災によって合板パネルが手に入られなくなる。
間伐材を使った建築システムの模索と開発

建築概要

主な用途: 公民館・集会場

敷地面積: 302.46㎡

建築面積: 26.11㎡ (ロフト: 8.5㎡)

延床面積: 26.11㎡

構造: 木造 (ヒノキ間伐材)

工法: ウッドブロック工法

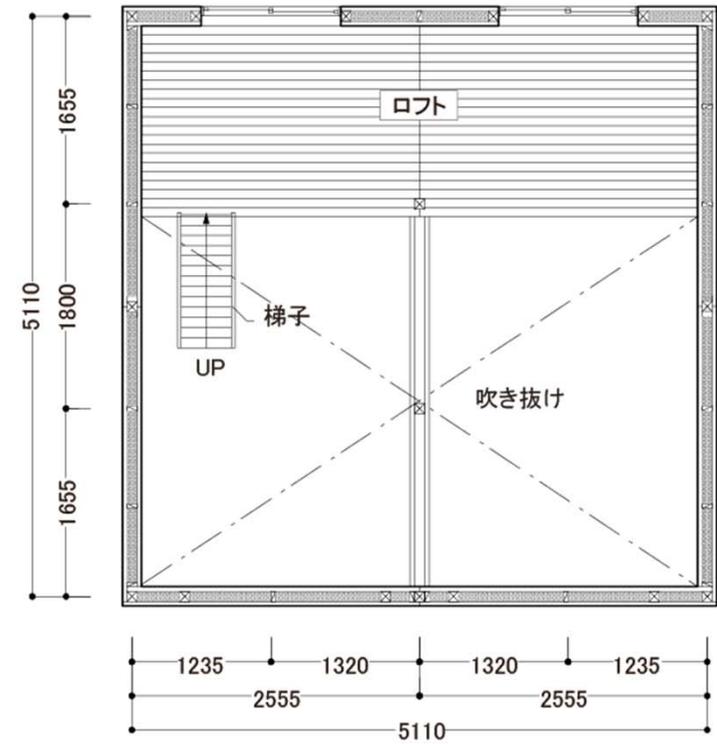
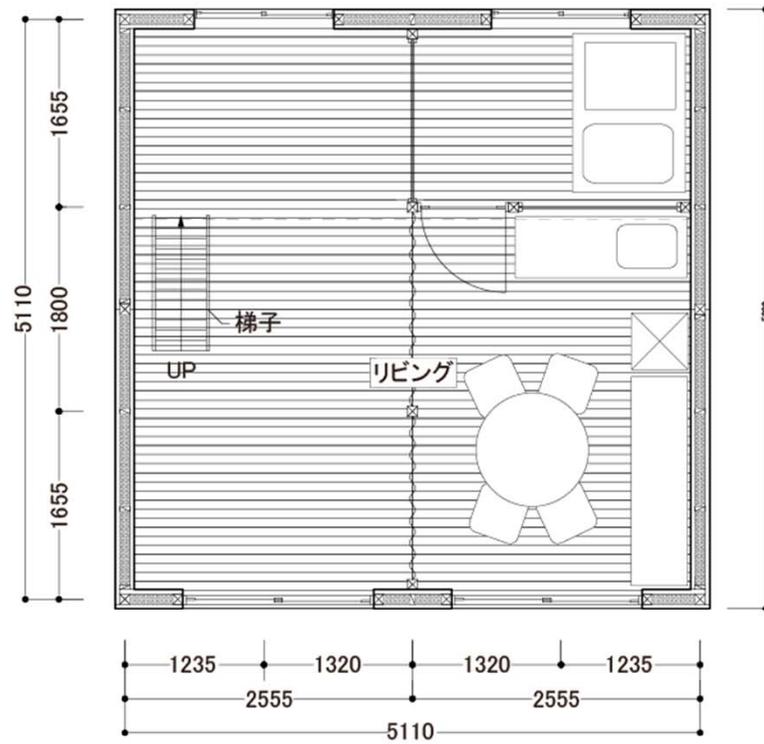


内観

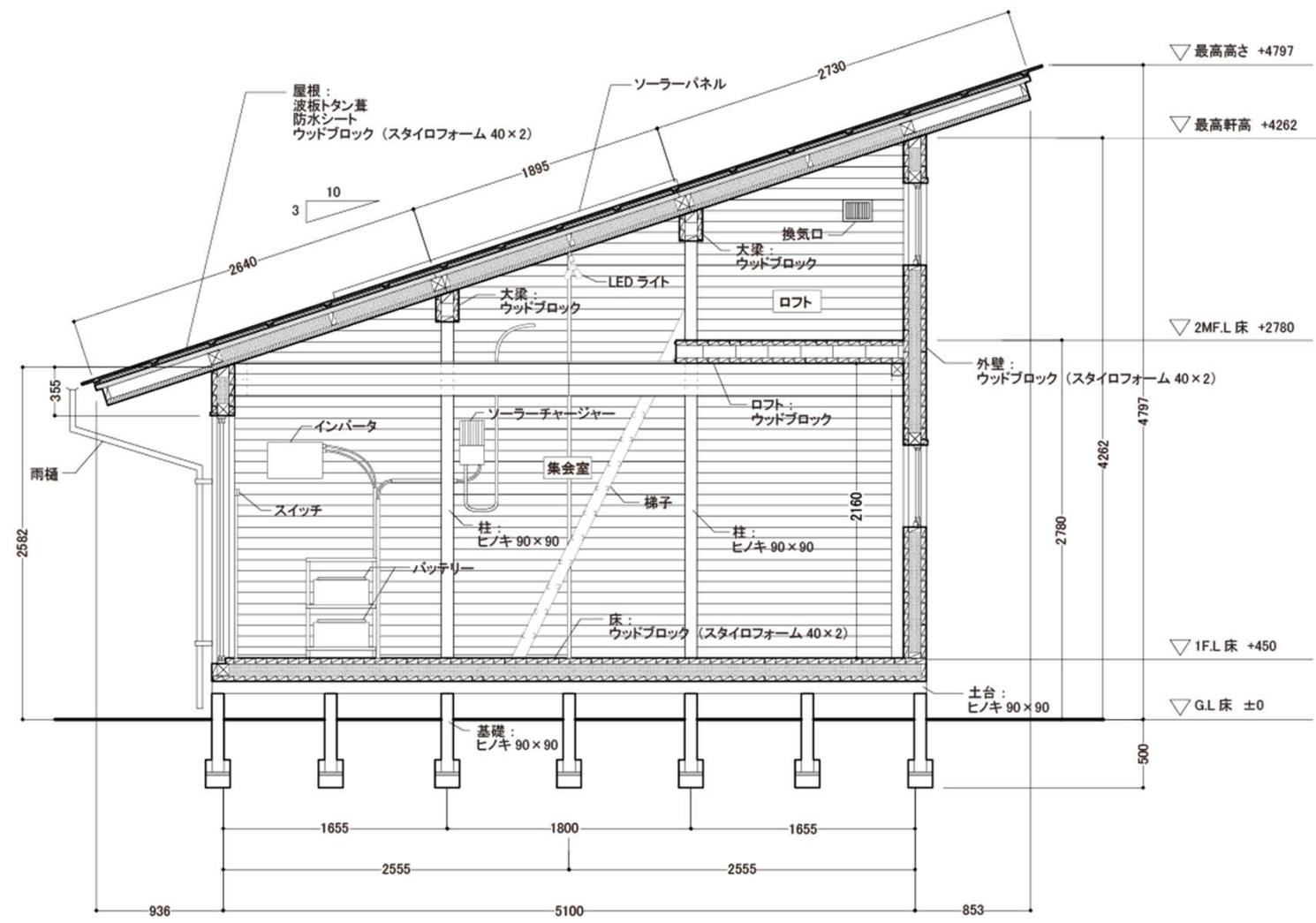


ロフトから

1F/2MF平面図



矩計図





応急住宅

ライフメディア

コミュニティケア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

自立型のエネルギーシステム



屋根にソーラーパネル設置した応急住宅



バイオトイレ

どんぐりハウスの活動の展開

東北各県、各市町村に、
どんぐりハウスを提案したが、
応急仮設住宅として採用されな
かった。

- そこに、大学の先輩から大船渡市三陸町御越来泊地区の公民館が流失した話が持ち込まれた！
- どんぐりハウスの活動は、仮設の公共施設を支援する活動に展開していった。
- 結果的に、多くの被災した市民の方々に役立てる活動になっていった。

どんぐりハウスの建設

●泊地区公民館



2011年5月7日完成
大船渡市三陸町越喜来泊地区

●相川・小指地区集会場



2011年6月24日完成
石巻市北上町十三浜
相川・小指地区



応急住宅

ライフメディア

コミュニティケア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

1 棟目「泊地区公民館」建設（岩手県大船渡市）

- 東海大学のOBの方から、大船渡市のニーズを入手した
- 応急住宅ではなく、「公民館」として建設



公民館が流され、元牛舎の外が拠点。
屋外で会議を行う。



応急住宅

ライフメディア

コミュニティケア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

ウッドブロック加工組み立て（岐阜県揖斐川町）





応急住宅

ライフメディア

コミュニティケア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月





応急住宅

ライフメディア

コミュニティケア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月





応急住宅

ライフメディア

コミュニティケア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月





応急住宅

ライフメディア

コミュニティケア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月



Google マップ

泊地区公民館



応急住宅

ライフメディア

コミュニティケア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月





応急住宅

ライフメディア

コミュニティケア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月





応急住宅

ライフメディア

コミュニティケア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月





応急住宅

ライフメディア

コミュニティケア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月





応急住宅

ライフメディア

コミュニティケア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

「泊地区公民館」引き渡し式 (5月7日)





外觀



室内 LED照明が灯り、段ボール家具を設置。ロフトを望む



南側を見る バッテリーや電気設備が設置され、コンピューター一台なども持ち込まれる。



ロフトから



応急住宅

ライフメディア

コミュニティケア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

ロハスデザイン大賞2011 2011.05.16.~05.23.





応急住宅

ライフメディア

コミュニティケア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

LDA2011 発表・授与式 2011.06.06.

「ロハスデザイン大賞2011」コト部門 最優秀賞受賞





応急住宅

ライフメディア

コミュニティケア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

2棟目「相川・小指地区集会場」建設（宮城県石巻市）

- ・知り合ったことから、石巻市のニーズを入手
- ・集会所として建設





応急住宅

ライフメディア

コミュニティケア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

Google マップ

仮設住宅41戸
(相川運動公園)

相川・小指地区集会所





応急住宅

ライフメディア

コミュニティケア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

建設作業（6月17～24日）





応急住宅

ライフメディア

コミュニティケア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月





応急住宅

ライフメディア

コミュニティケア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月





応急住宅

ライフメディア

コミュニティケア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

図書コーナーの設置・本棚作成

- ・株式会社サムライフファクトリーより本の寄贈
- ・登米町森林組合から組手仕の寄贈





応急住宅

ライフメディア

コミュニティケア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月









応急住宅

ライフメディア

コミュニティア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

「相川・小指地区集会所」完成式（6月24日）





応急住宅

ライフメディア

コミュニケーション

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月





応急住宅

ライフメディア

コミュニティケア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月





応急住宅

ライフメディア

コミュニティア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月



「夏休みこどもテレビ局」の実施
子どもたちの目線で映像メッセージを発信



応急住宅

ライフメディア

コミュニティケア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月



「つながる支援」 一大船渡市

- 「人とのつながり」を重視し、ニーズに沿った支援活動を実施。
- 小学校の図書室の整理や、「泊地区公民館」の掲示板や花壇を作成した。



応急住宅

ライフメディア

コミュニティア

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月



3.11生活復興支援プロジェクトシンポジウム

—東日本大震災からの復興と大学の役割—

- ・大船渡市からは平田ミイ子氏、石巻市からは佐々木文彦氏をパネリストとして招待。
- ・これまでの活動を振り返り、被災地における現状の課題、大学が果たす役割と今後の展望などについて意見を交わした。



応急住宅

ライフメディア

コミュニケーション

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月



「つながる支援」—石巻市—

- 地域の伝統行事「春祈祷」の実施に合わせて交流活動を企画。
- 大凧と小凧の製作、神奈川と宮城の郷土料理づくりなどの企画を実施。

東海大学チャレンジセンター

3.11 生活復興支援プロジェクト

名取市図書館

どんぐり子ども図書室

1. 建設までの経緯
2. 施設の特徴
3. 施設の利用状況

○熊崎 雄大 * 正会員
狩野 翔太 * 正会員
笹目 宗 * 正会員
塩野 俊介 * 正会員
下田 奈祐 * 正会員
山内 昇 * 正会員
渡邊光太郎 * 正会員
※杉本 洋文 ** 正会員

* 東海大学大学院工学研究科建築学専攻 修士課程

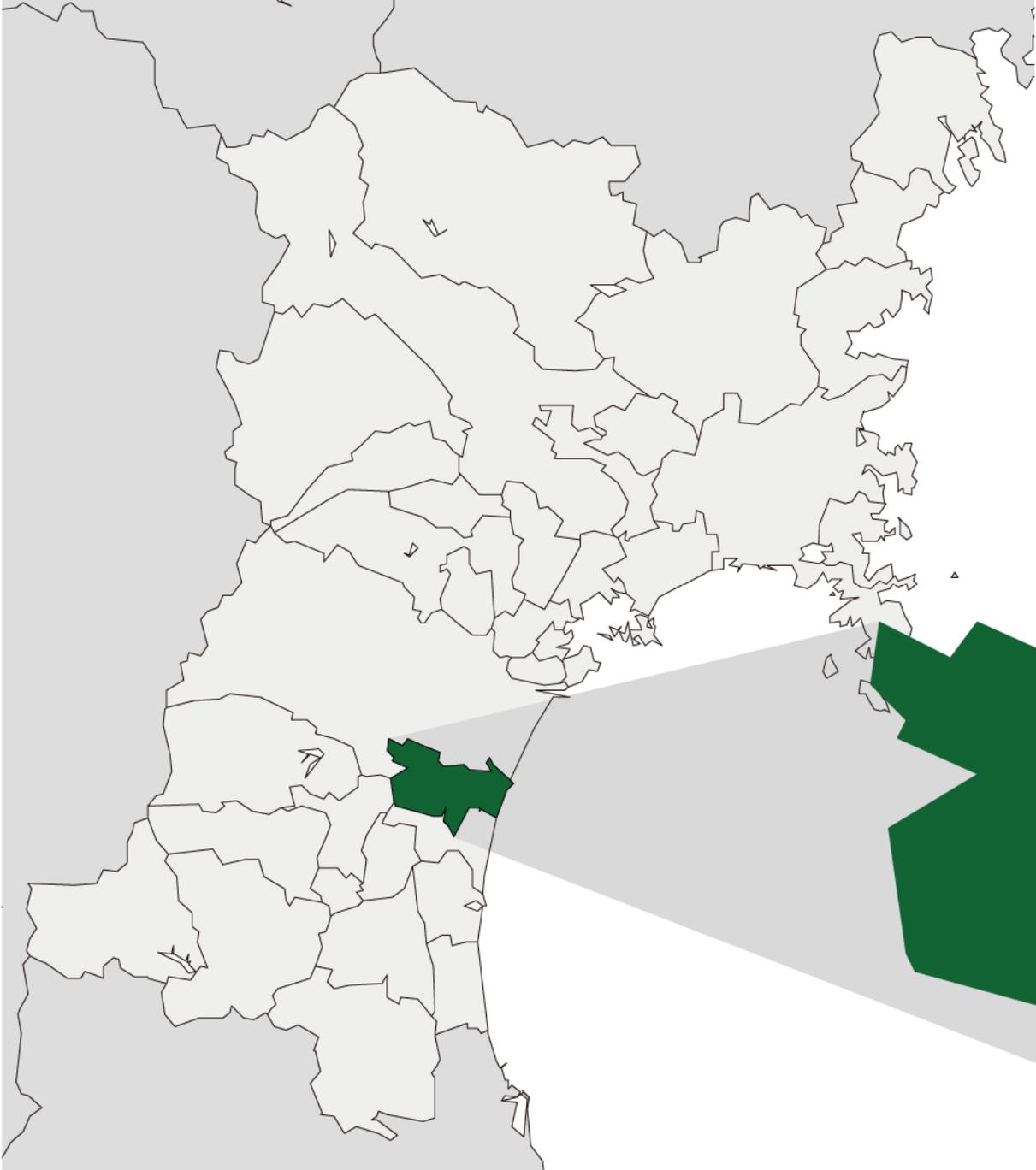
** 東海大学大学院工学研究科建築学 教授(※設計指導)

建築デザイン発表会

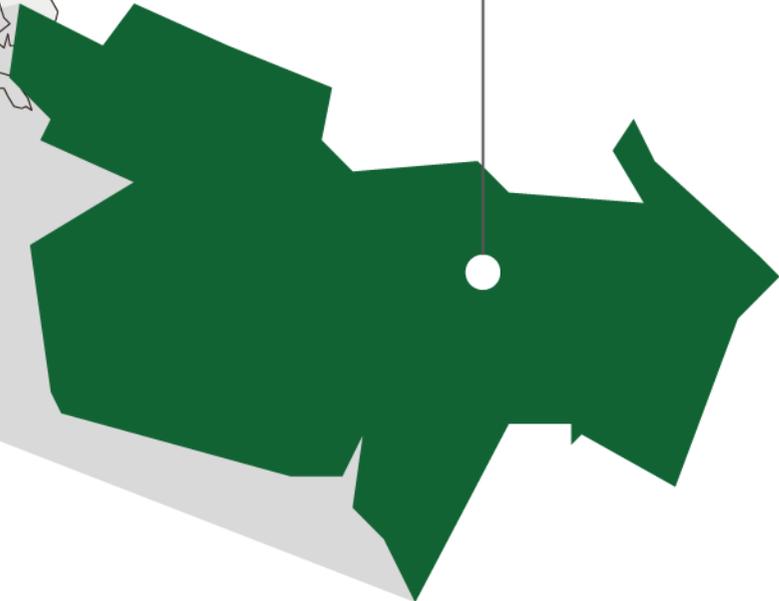
B01 14059 名取市どんぐり子ども図書室

1. 建設までの経緯

図書館の所在地



名取市図書館





被災した名取市図書館

被災した図書館について

所在地：宮城県名取市増田 1-7-37

1958年 名取市市役所として竣工

1976年 旧市役所庁舎を図書館に転用し開館

1995年 図書館改修工事

2011年 東日本大震災により建物に甚大な被害

建物被害の原因：地震による揺れ

被災時の築年数：築53年

構造規模：RC造2階建て

延床面積：996 m²



内部の被害状況



書庫を利用した図書室

被災後の図書館の動向

2011年05月 書庫1棟および移動図書室1台
により図書館業務を再開

2011年10月 20坪のプレハブ図書室を建設
移動図書室1台を追加（計2台）

2011年01月 どんぐり子供図書室オープン



移動図書室



20坪のプレハブ図書室





ウッドブロック工法の開発・検討

ウッドブロック工法

いつでも！

だれでも！

簡単に！

- 地元住民と共同できる簡易施工システム
- 地元林業者の活性化
- 木材自給率の向上へ



どんぐりハウスでの建設実績



地元住民と共同で施工し一週間で完成

2. 施設の特徴



北側外観



西側外観

どんぐり子ども図書室 建築概要

開館：2012年1月6日

主用途：図書館

構造：木造（スギ、ヒノキ間伐材）

工法：ウッドブロック工法

敷地面積：3,095.04 m²

建築面積：156.51 m²

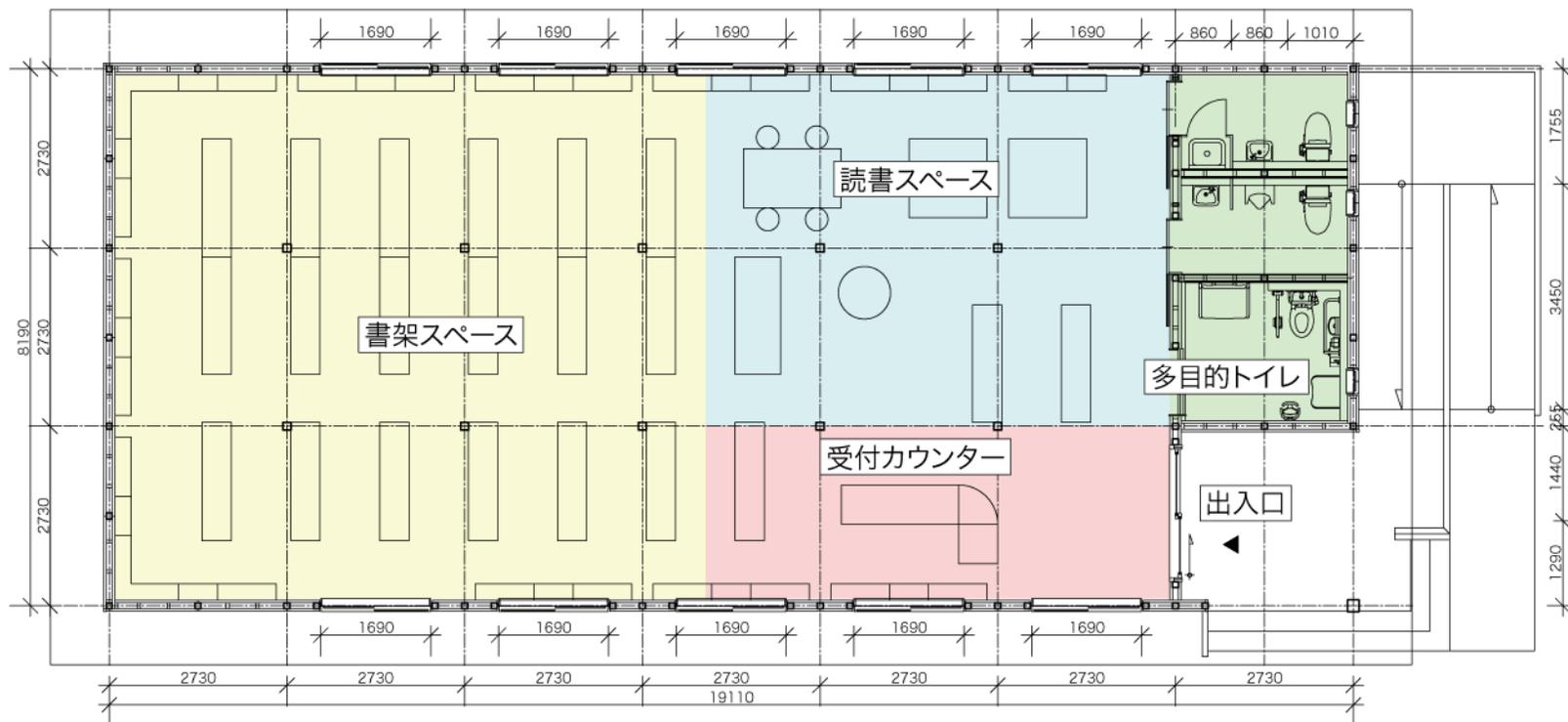
延床面積：149.06 m²

使用した木材量

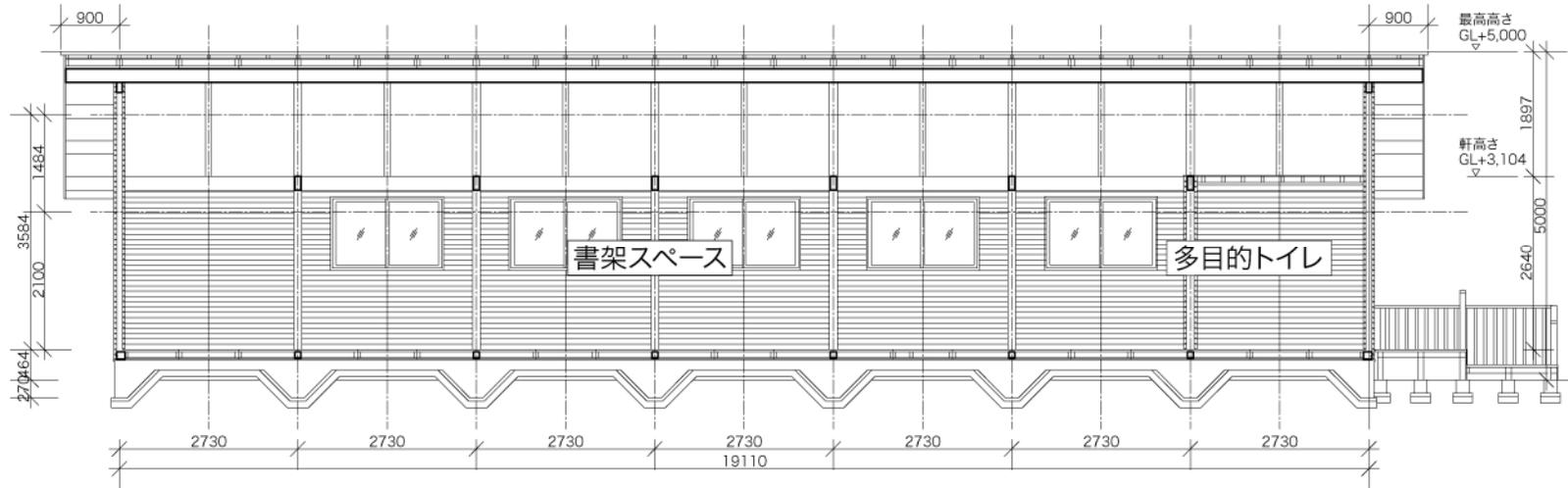
ヒノキ丸太：90.0 m³（90角製材：43.8 m³）

概算の間伐面積：3 ha

平面図



断面図





どんぐり子ども図書室 西側外観

広くても暖かい書架スペース

蔵書数：約2万冊（絵本や児童書中心）

本棚：東北のスギ材を用いた組手付 計44台

ピクトサイン、下足箱、スリッパ入れまで
残材を利用するなど、木を余すことなく使用



エントランスより図書室を臨む



木にこだわったピクトサインの例



組手什（本棚）組み立て風景

内装整備ボランティア

3.11 生活復興支援プロジェクトでも
組手什の組み立てや絵本の陳列など
竣工後の図書室環境整備をサポート



絵本の陳列



木口のヤスリがけ





Interior 内観



Interior 内観

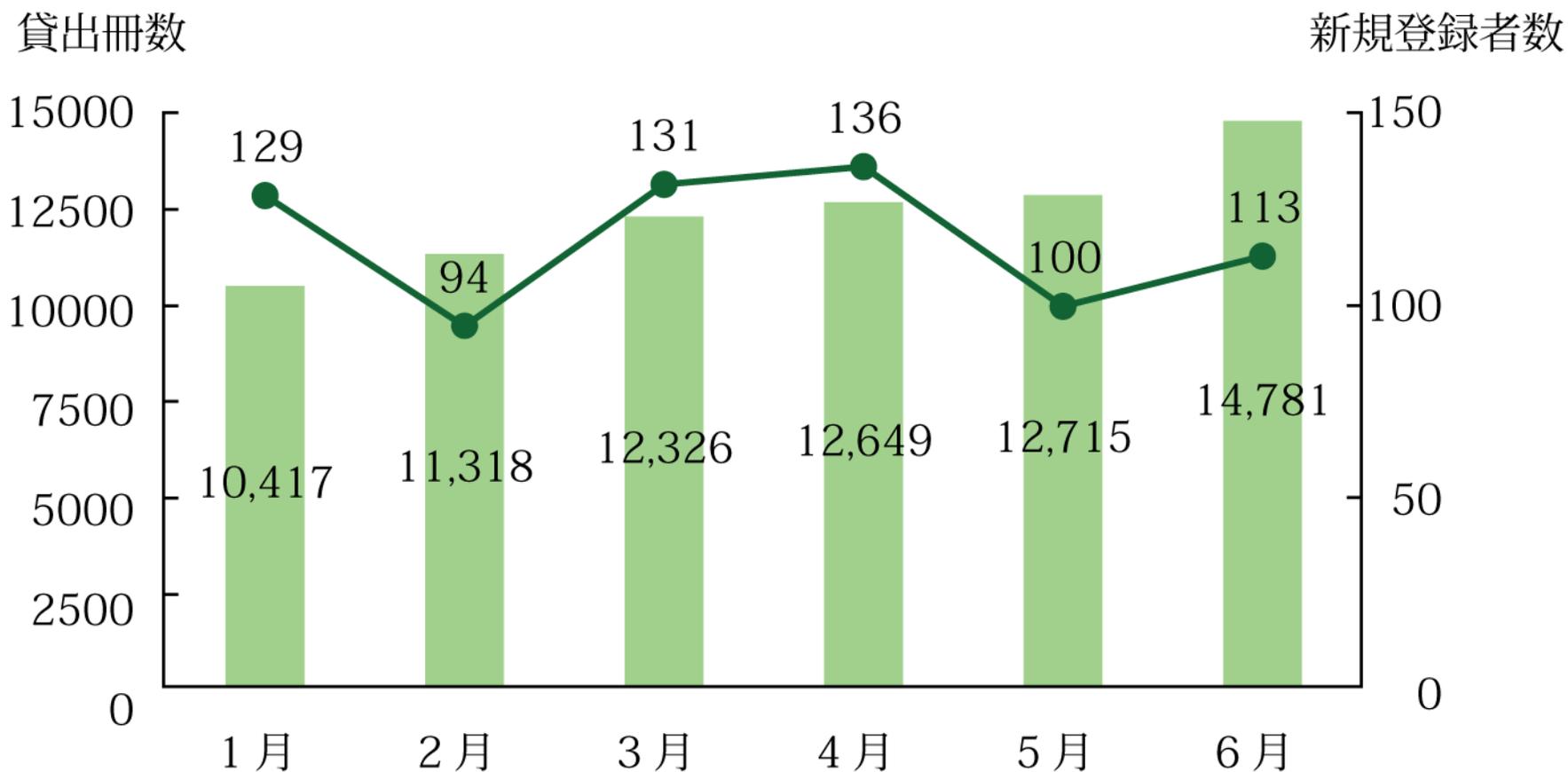


Interior 内観



3. 施設の利用状況

平成 24 年上半期 (1～6 月) の利用状況





大学生による本の紹介

出会いを生む図書室

8月22日

県内大学の学生、計11名が図書館に
インターンシップとして来館
学生達がおススメの本の“ポップ”を制作
それぞれの本と一緒に掲示している



アグネス・チャン氏による絵本の読み聞かせ

8月24日

日本ユニセフ協会大使の
アグネス・チャン氏による
絵本の読み聞かせが行われる



子どもに大人気の水ヨーヨーつり

人と人をつなぐ図書室



思い思いの願いを下げて…

恒例となっている七夕飾りを今年は
どんぐり子ども図書室で盛大に開催

※昨年は移動図書館車の車庫で開催



「どんぐり・アンプロジェクト2012」 Donguri Ann Public Library



2012年12月、名取市図書館
「どんぐり・アンみんなの図書室」
2013年1月19日 開館予定





建築概要

主要用途

構造

建築床面積

延べ面積

図書館

木造平屋建て

234,38m²

239,48m²

木材

カナダ産ツガ



3.11 Life Care Project
生活復興支援

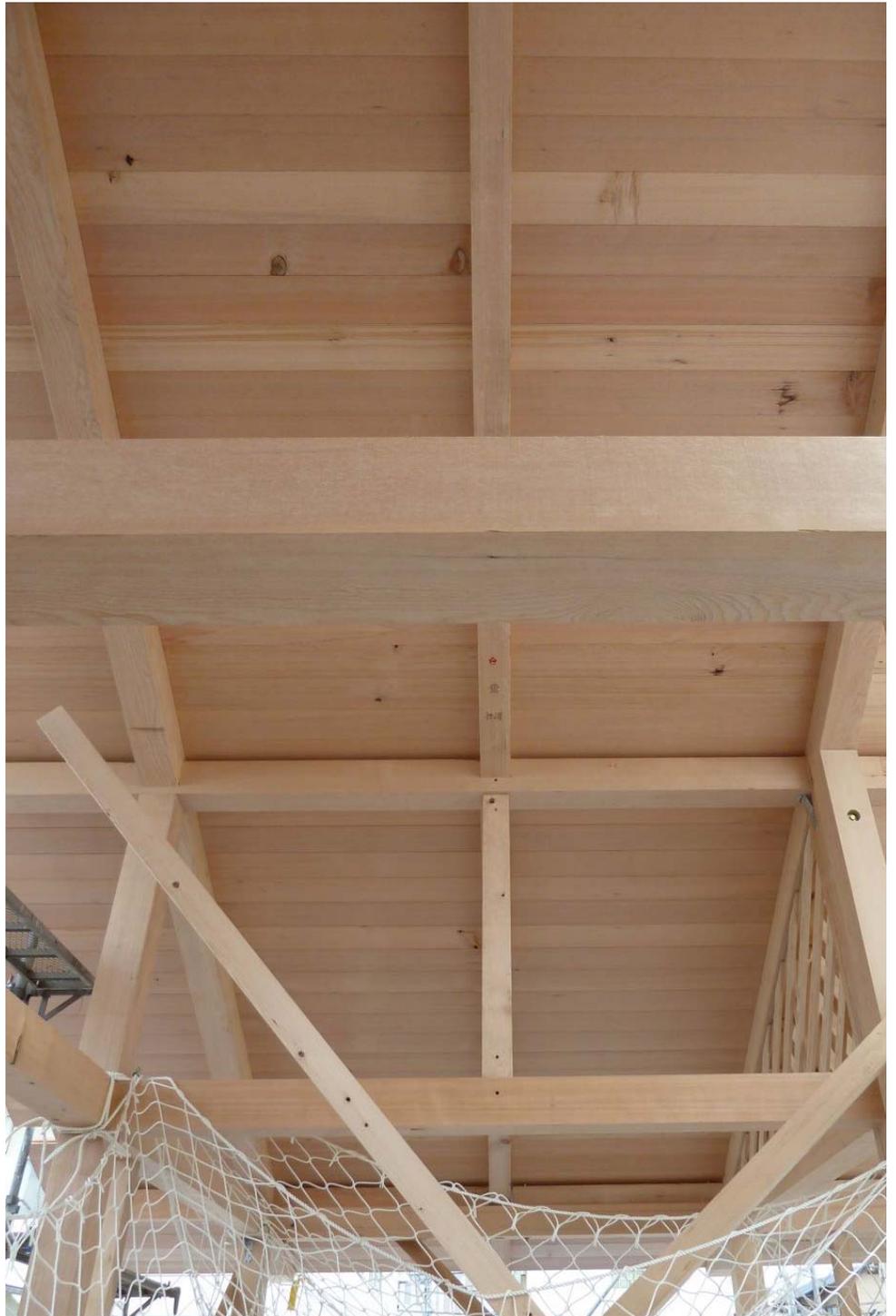
Disaster Relief Life Media Community Care



カナダの木材と 金物接合+パネル 工事工期は約2か月









復興で大切にすべき視点

突然発生し、絶対回避できない 地震災害に対して、何をなすべきか？

基本視点

- 視点1 復興から住み続けられることができる
まち・地域をつくる。
- 視点2 災害の教訓と地域の絆を生かし、
自然と共生した災害に強いまち・地域づくり。
- 視点3 「まち」と「個人」の再建を同時に進める。
～自助・共助・公助の総合的な視点から～

プロセスを考える

- 知ろう 地域の魅力・資産・価値を発見・発信する。
- つくろう 地域の価値・資産の質と能力を高める。
- つなごう 持続可能な復興まちづくりの礎を築く。

復興まちづくりのロードマップ

ロードマップ

	初動期	計画期	活動期	復興期	補完期
知ろう		地域の資産を見なおそう (産業・文化・)	観光資産)		
		地域の特徴を知ろう (気候地形・都市構造・建築意匠形態等)			
		地域のつながりで価値をあげよう (コミュニティの)	特徴)		
つくろう	集会の場づくり	暮らしながらまちの復興を語り合おう 復興 まちの将来像の共有	のドラマづくり (地域再生計画)	復興事業	復興事業評価
		地域のライフスタイルをつくろう	職住遊学の間を考える		コンパクトタウン
		環境美化活動 地産地消 歴史的	資産の保全活用 起業支援 体験型観光		
	ハザードマップ 道路復旧・ライフライン復旧・瓦礫撤去	安全・安心な暮らしをつくろう	避難計画 避難訓練		
		産廃・リサイクル 防災避難	地図作成		
	流通復旧	産業復旧 生業をつくろう	食文化開発 農林漁業の連携強化		新産業・観光開発
	建築制限	景観資源調査 景観を整えよう まちづくりのルールづくり	文化財・景観事業 景観計画など 審査システム構築		
		集いの場づくりからはじめよう	集落公民館をつくる 寄り合い食堂		ゲストハウス
		居場所をつくろう	大きな家をつくる 共同の作業場 ひとりになれる場をもつ		
	ボランティア支援	カウンセリング アドバイザー派遣 交流の仕	組みをつくろう ビジターセンター ファンクラブ		バックアップ体制構築
	道の環境改善	現況交通地図作成 やさしい	移動環境をつくろう バス路線改良 シェアシステム		新交通システム
	伝統家屋に学ぶ 自然共生	住宅 自然エネルギーを活用しよう 代替エネルギー		サステイナブル・エコ	
つながろう	災害救助 炊き出し 義捐金	支援コンサート 人と人をつなごう	共助の活動・仕組みづくり		グリーンツーリズム
	避難所設置 支援相談	外部基金	支援アートイベント 姉妹都市・地域交流		
		伝統行事被災状況 伝統をつなごう	伝統行事・芸能の継承 復興祭り		
	災害記録 情報支援	まちの情報を共有しよう	情報ステーション 活動記録 情報共有・発信の仕組みづくり		復興記録
		防災イベント 過去の災害に学ぼう	災害の考証 教訓を活かしたまちづくり		災害モニュメント
	資材供給体制	まちの運営管理の仕組みをつくろう	エリアマネジメント		
	仮設住宅 仮設集会所	仮設街区 復興センター(支援を受ける)	母体) 復興活動	アーバンデザインセンター	

高台移転計画の支援活動



2012年4月～

「高台移転に向けたワークショップ」の実施

どんぐりハウスで未来のみんなの家を考える



泊区復興まちづくり会議（9回）

住民とUDMが一緒になって
会議を立ち上げ、復興まちづ
くりの高台移転計画を学生と
一緒に作成し、提案している。

- 提案CONCEPT『泊 桃 源郷』





泊区13戸の高台移転計画モデル



まちづくりルールを作成して
宅地と建築の一体整備を推進する



泊展@京橋ものがたり館 2012・10

NPOアーバンデザイン研究体+東海大学チャレンジセンター



被災地における大学図書館の役割

●短期的

- 収集 被災地と各種図書館の被害状況の把握
- 仕組み 即応性、柔軟性のある支援体制づくり
- 支援 学内活動と連携して、被災地のニーズを把握し、支援活動の立案

●長期的

- 収集 学内災害支援活動の把握、記録集の作成
- 研究 学内研究の把握、災害学・復興学の研究
- 発信 防災・減災・避災の知恵の結集・発信
- 交流 大学図書館相互の災害情報ネットワーク



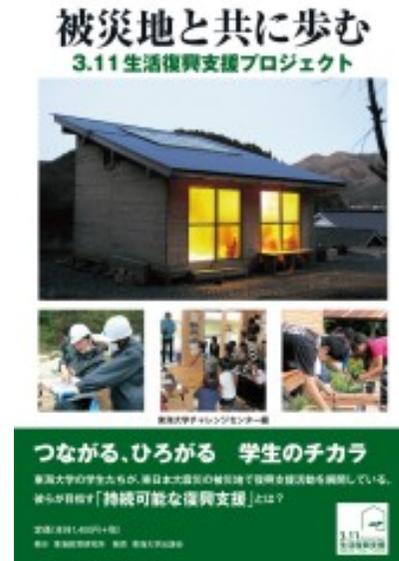
3・11生活復興支援プロジェクトの 報告書を兼ねた本を出版。

つながる、ひろがる、学生のチカラ

東海大学生たちが、
東日本大震災の被災地で
復興支援活動を展開している。
彼らが目指す

「持続可能な復興支援」とは？

NPOアーバンデザイン研究体は、
被災地の復興に必要なまちづくり
の知恵を集め、
「復興まちづくりの知恵袋」を
出版した。



**東海大学チャレンジセンター
3.11 生活復興支援プロジェクト**



ご清聴ありがとうございます。